

4次防もいよいよ年度予算に計上され、物質による防衛も益々整えられつつある時、み言葉をとおして理想的な防衛はどんな形になるであろうか。と考えるのも面白いのではなかろうか。勿論防衛の任務にたずさわろうとする人達は、平和時にはあまり用事がないので、緊急事態に臨んでの心構えこそが重要なわけである。旧約聖書の中には多く戦史や戦例があるが、それらの場合に臨んで、如何に誠の道に従う事が大切であるかを教えられる。緊急の時に只に経験や人知に頼ることではなく、神の指示される道を如何に早く見出して、それに従うかが戦勝の別れ道であるかを知らなければならない。例えとして自衛官が全部クリスチャンであったら一体どういう事になるであろうか。いや只クリスチャンと名乗るのではなく、一人一人が主の民であり、一人一人がキリストに似る者であり、主のように行動出来る者であったらどうであろう。そして外敵の来襲、さてどうしたらよいであろうか。「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか。」(28節)という問いに対しイエスは答えられた。「神がつかわされた者を信ずることが、神のわざである。」(29節)と、そして「わたしが天から下ってきたのは自分のこのころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(38節)と、又言われた「わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信ずる者は決してかわくことがない。」(35節)

(以下、不明)